

附帯意見（案）

（交第1号議案）

高齢化が進展する中で、バス交通は市民に身近な交通機関として、日常生活を支える大変重要な役割を担っている。誰もが生き生きと安心して暮らせるまち、出かけたくなるまちを実現していくためには、将来にわたるバスネットワークの維持は不可欠である。その中で市内バス交通の約4割の運行を担う市営バスが今後果たしていく役割は非常に大きいと言える。

一方で、近年のバス事業は、労働環境の変化等を背景とした深刻な運転士不足や、不透明な燃料調達価格なども含めた諸物価の高騰により、極めて厳しい事業環境に置かれており、既存バス路線の維持確保が困難な状況となっている。

こうした中で、本市バス事業においても、コロナ禍以降は収支が悪化し、赤字が継続する厳しい財政状況であることに加えて、今後の収支見通しでもさらなる経営悪化が見込まれている。議会においても、これまで主たる収入源であるバス運賃の改定について度々議論を行ってきたものの、当局から明確な経営判断が示されることはなく今日に至った。

こうした経緯を踏まえて、今回、市営バスが引き続き安全で安心な輸送サービスを安定的に提供していくため、運賃の改定によって持続可能な経営を目指すことは理解できるが、運賃改定の実施に当たっては、次の事項に特段の対応を図られたい。

- 1 効率的な事業運営に努め、資産の有効活用などによる増収やコスト削減といった企業努力に全力で取り組むこと。
- 2 既存市営バスネットワークの維持に努め、定時性の確保や障害のある方への合理的配慮の提供など利用者の利便向上にも積極的に取り組むこと。
- 3 市民や利用者へ、運賃改定の内容をより分かりやすく丁寧に広報すること。
- 4 市営バス事業の明確な財政状況や事業状況について、議会に対し、適時適切に報告を行うこと。